

関西大学学長 大西昭男



ご卒業おめでとう。こうして一九九〇年代初頭のきびしい現実社会へと諸君は踏み出して行こうとしておられる。世界の歴史にもたぬしの少ない大変動の起こった一九八九年という年に、諸君はそれそれに生涯の進路を見だめねばならなかった。そしていま、決断し、行動しようとしておられる。世界の進路そのものが、「視界ゼロだ」などといわれたから年久しく、そしてとうとうあちこちで崩壊するものが崩壊しだして、何がどこまで崩壊してしまうのかもまだ見えわめがつかない。

はこそ、視界ゼロの世界に踏み出して行こうとする諸君を、私たちは全幅の信頼と無限の期待をこめて送り出したい。

明日に向かい発信せよ

られる。その、二十一世紀初頭の君自身に向かって、高く遠く、ボールを投げてみたかどうか。どんなボールでも投げることので

わがものとされたのか。それは諸君それぞれに違うことと思う。しかし、この四年間に未だ開発され尽くしてはいない無限の可能性を

そしてその後何が生まれてくるのか。何を創りださなければならぬのか。それがさだかでない。にもかかわらず、いや、それなら

明日の世界は君たちのものなのだ。二十一世紀の世界を背負うのは君たちなのだ。十年後には、諸君は二十一世紀の初頭に立ってお

きる諸君の若さが私には羨ましい。まぶしいほどに輝いて見える。百年の歴史を生きて来たが関西大学から諸君が何を学び、何を

もこめて、大きく、高く、遠く、諸君の夢を、明日に向かって、未来に向かって、差し当たっては、二十一世紀初頭の君自身に向かって投げることがいまの諸君にはできる。

明日に向かって発信せよ。激動してどまることを知らぬ一九九〇年初頭の世界の、その日本の、その一角の関西大学から踏み出して行く諸君に、明日に向かって発信せよ、と、ただその一言だけを贈る。

幸を祈る。

(M.O.)



平成元年度卒業式を挙行



巣立つ新学士

5077名

平成元年度卒業式は三月二十日(火)に挙行され、五千七十七名の新学士が誕生する。

千里山学舎では、午前十時から第一部の文、経済、社会の各学部が、午後一時から同じく法、商、工の各学部が式を挙行し、また天六学舎では午後六時から第二部の全学部が式を挙行する。

新しく学士の称号を認められる者は、法学部八十三名(第一部七十六名、第二部七名)、文学部八十九名(第一部八十八名、第二部一名)、経済学部八十九名(第一部八十八名、第二部一名)、工学部八十九名(第一部八十八名、第二部一名)、商学部八十九名(第一部八十八名、第二部一名)、法学部八十三名(第一部七十六名、第二部七名)、文学部八十七名、社会学部七十三名の合計二千二百七十七名である。博士課程後期課程単位修得者は、法学部七名、文学部七名、社会学部七名、商学部七名、経済学部七名の合計三十五名、工学部七名の合計四十二名である。

4年間を振り返って

学部卒業生諸君が本学に入学したのは、昭和六十一年四月であった。この年の十月四日、関西大学は創立二〇〇周年を迎え、大阪城ホールにおいて盛大な記念式典が挙行されたのをはじめ、幾多の記念行事が催され、有意義な記念事業が計画された。

また相前後して、関大第二世紀にふさわしい研究教育の充実をはかる設備や制度の整備が行われた。すでに前年には総合図書館と情報処理センターが完成しているが、六十二年四月には経・商ゼミ棟と第三学舎(社会学部)の増築棟が竣工した。さらに、六十二年四月には飛鳥文化研究所・植田記念館の新館が完成、真新しい施設で快適に勉学に励んだ諸君も多かったことであろう。

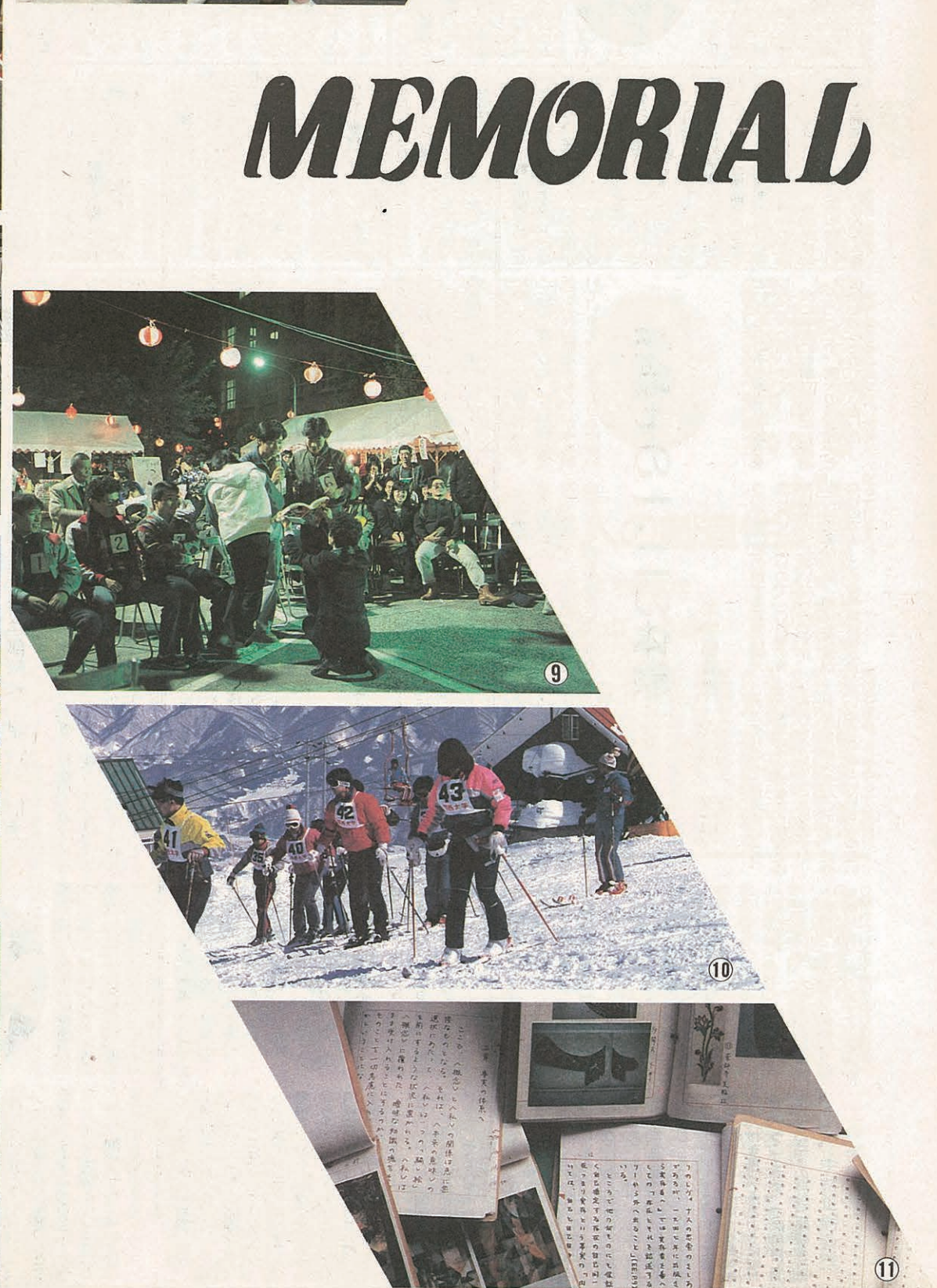
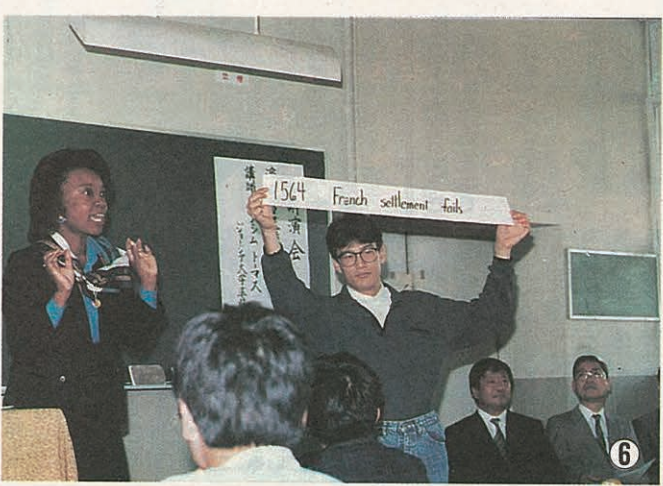
六十二年からは、学生間の国際交流の一環として、本学の友好校であるハワイ大学カホオラニ・コミュニティ・カレッジにおいて夏期英語セミナーが始められ、英語研修や異文化体験の上で大きな成果を挙げているが、平成元年三月には学生国際交流館・秀麗寮が完成し、男女寮生の国際交流の場が提供されることになり、学生の相互交流がさらに進められた。

また同年十一月には、国際会議や学会、講演会等の使用に供する一〇〇周年記念会館が落成し、それを記念する国際シンポジウムが行われた。この記念会館内には、学生・教職員などが利用できる室内温水プールも備えられている。この四年間、社会も激しい変化にみまわれた。六十二年四月一日に、雇用面での男女差別の解消を目的とした男女雇用機会均等法が施行され、就職を希望する女子学生を大いに励ました。同年二十六日に起きたチェルノブイリ原発事故は、世界に深刻な衝撃を与えた。

このように激動する社会ではあるが、卒業生諸君が大いなる希望をもって、健康なことを期待する。(市川)

めたく卒業証書を手に入れた諸君、ご卒業おめでとう。まず、心からお祝いを申しあげます。さて、諸君は本学で過ごした四年間の生活を、きつと、一瞬の出来事であったように感じているだろう。光陰矢の如し、とはいっても、それは諸君自身に、大きな変化があったからだ。とりわけ、だれも予想しなかったような大変化を、目の当たりにすると、人は時の経つ早さに感嘆する。昨年の一年間に、ソ連と東欧圏を襲った大変動は、まさしくそれで、現在なお進行中である。昨今の一瞬は、かつての一瞬でなくなっていることだけは、確かかなようだ。仏教の世界で、〇・三六秒であった一瞬という時間は、今日の計算出ると、一体どのくらいになるのか、おおよその予想さえつかない。今や、とんと見通しのつかない時代、といわれて久しい所以でもある。▼ところで、混沌は、天地の始まり。目まぐるしいほどの千変万化は、それなりに人の心を引きつけるが、所詮、如何にしてものもやもよこる現状から脱出しようか、の一方途。毎日毎日の一瞬一瞬を、しかとつかんでいないと、あまりに変化が多すぎて、自分の身辺から、時間だけがサッサと逃げ出してしまっているの思い当たる。肝要なのは変化そのもの。しかも、直接この身にかかわる大変化だ。時の経つのが早いと感じたのも、時間を自分のものにしていないからだ。▼所定の教育課程を修めた諸君には、明日から、その仕上げをする実地がまっている。勿論、教科書はない。あれば便利だが、その必要もない。実地で大事なのは自分流。自分流の時計を使い、これまで以上に自分流の愉快な日々を送ってほしい。諸君の健康と多幸を祈る。

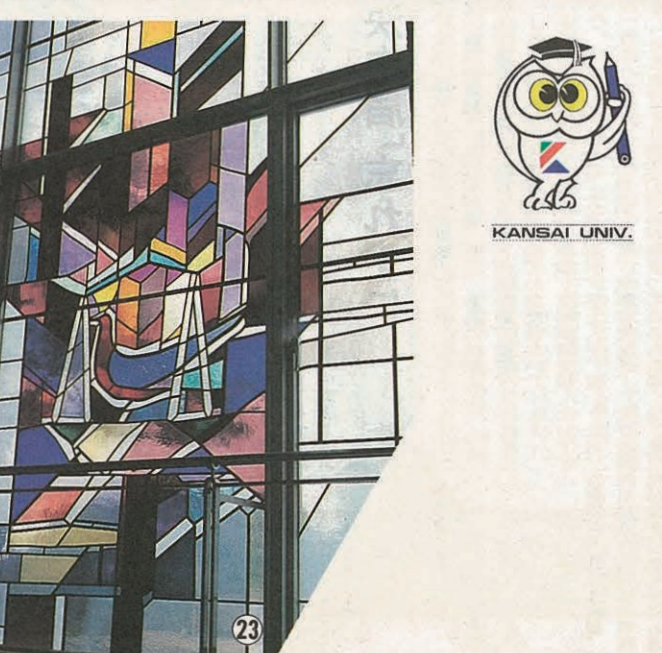




MEMORIAL



- ① 嬉しさを全身で感じた合格発表
- ② 暖かい春の日差しの中でのクラブ活動
- ③ 留学生も交えて国際的な会話もはずむ学生国際交流館・秀麗寮
- ④ 就職活動もいよいよ夏が正念場
- ⑤ 総合関戦の最後を飾るマラソン大会
- ⑥ 英語の講義を生で体験した学術講演会
- ⑦ 生協食堂での雑踏がなんとも懐かしい
- ⑧ 学園祭の模擬店では留学生も大活躍
- ⑨ 都会の夜にひととき盛り上がる天六祭
- ⑩ カラフルなウェアに身を包んでのスキースクール(後ろは黒菱山の家)
- ⑪ 4年間の集大成 卒業論文もやっと完成
- ⑫ 創立100周年記念式典を挙行(於・大阪城ホール)
- ⑬ 飛鳥文化研究所・植田記念館新館が完成
- ⑭ 学生国際交流館・秀麗寮が完成
- ⑮ 創立100周年記念会館が完成
- ⑯ 第1回ハワイ夏期英語セミナー 修了式のパーティーにて
- ⑰ 協定校であるカトリック・ルーバン大学生と一緒に記念写真
- ⑱ 第1学舎(法・文)中庭
- ⑲ 第2学舎(経済・商)
- ⑳ 第3学舎(社会)
- ㉑ 第4学舎(工)
- ㉒ 天六学舎
- ㉓ 第2学舎新ゼミ棟のステンドグラス



武智英裕

の小さな時の年の日に戻ったような狂喜と感亂、川全体がネナールウォーで、
 太い水のうまき、ウダとワツビなどの山菜の味、可憐な花をつけた山奥の植物、朝まずめのすがり、湯通ししておひたし、また

た早すかしたまらなく滑しい夕まに
ずめ、納筆時に襲つてくる疲労感、
帰宅後の頭がからつぽになった深
ちに眠り、そうしたすべてに惹かれ
て中年男はまた、溪へと向かうの
れらである。

(文学部教授)

に油燈に何ともいえない
とした菌床きは、眼前景色と、溪
私の深歩きは、聞きながら、
こたまたまその水音を聞きながら、
離にして、を三時間くらいか
て歩くことになるのが普通で
る。歩き終わっても、腰の魚
が少し重かったとしたら、それ

小田 正雄

ど。アクティビティの二つと言つことが出来る。しかし、今、自然は衰退し、そこに棲息する魚たちは急速に消えつつある。よって今はやりのウォッチングで満足すべく、ものを得意とするようなゴツイ又、その皮が、骨のエンベロー

小沼 啓助

楽しんでできる健康管理に役立てばと願っている。

(市川・尾崎)

平田
渡

小のた時の少年の日に戻つたような狂喜と惑亂、川全体がミネラルウォーターの水のうまさ、ウドやワサビなどの山菜の味、可憐な花をつけた山奥の植物、朝まずめのすがすがしさ、たまらなく淋しい夕まじめ、納辛時に襲つてくる疲労感、帰宅後の頭がからっぽになった深い眠り、そうしたすべてに惹かれて中年男はまた、溪へと向かうのである。

(文学部教授)

なかでも五月の頃の少し花のいたワバミノウは、ほとんどが顧みることがないので残つて、湯通ししておひたし、または油炒めにしても、そのサクサとした歯応えが何ともいえない私の溪歩きは、眼前景色と、溪にこだまする水音を聞きながら、離れて一々三時間くらいかかると歩くことになるのが普通である。歩き終わっても、腰の魚が少し重かったとしたら、それ

井藤 一良

ど。アクティビティの二つと言つことが出来る。しかし、今、自然は衰退し、そこに棲息する魚たちは急速に消えつつある。よって今はやりのウォッチングで満足すべく、ものを得意とするようなゴツイ又、その皮が、骨のエンベロー

1966年 監督 クロード・ルルーシュ
 仏映画 主演 ジャン・ルイ・
 トランティニャン
 アヌーク・エーメ



てばと願っている。

► 編集後記 ◀